

2015年9月

歴史 No. 11

けんぱくものしりシート

はし の こう ろ も けい 橋 野 高 炉 模 型



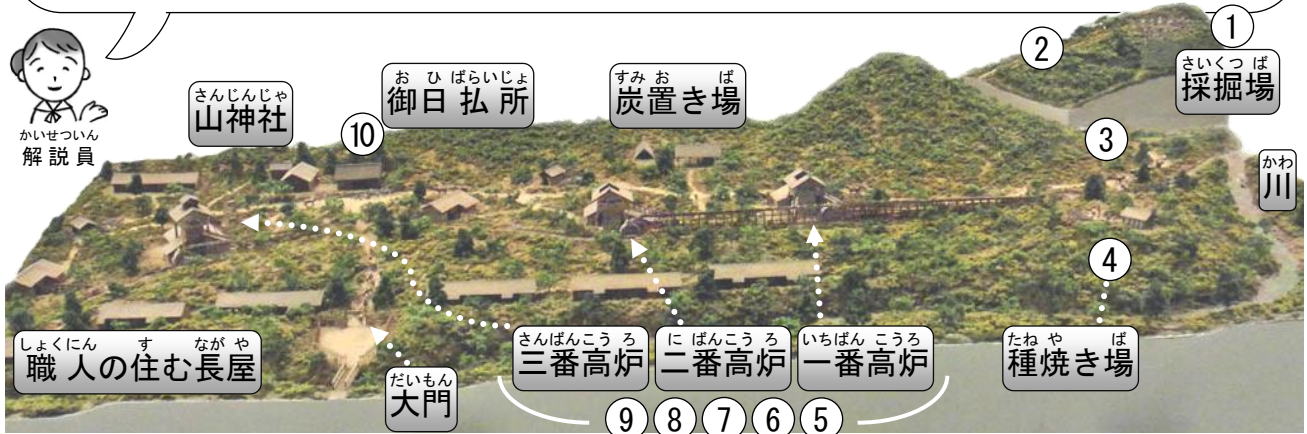
いま やく ねんまえ ねんごろ もりおかはんはしのむら げんざい かまいしはしのちょう こうろ
 今から約150年前(1858~1861年頃)、盛岡藩橋野村(現在の釜石市橋野町)に「高炉」
 が3基つくられました。「高炉」では木炭を燃やし、1000℃以上の熱で
 鉄のもと「鉄鉱石」をとかし、鉄のかたまりをつくりました。
 「橋野高炉模型」と「橋野高炉」の鉄づくりの様子を描いた
 「橋野高炉絵巻」から、当時の鉄づくりの様子をのぞいてみましょう。【鉄鉱石】



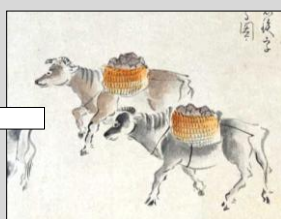
【鉄鉱石】



解説員



④ 種焼き場で焼いた鉄鉱石を3cm位にくたく



③ 牛も手伝う



② 鉄鉱石を運ぶ



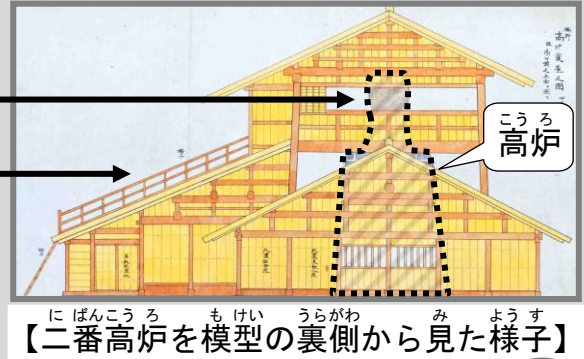
① 採掘場で鉄鉱石をとる



⑤ 鉄鉱石と炭を1対2の割合で2階の作業場から高炉に入れる



⑥ 鉄鉱石と炭ははしごを使って2階の作業場に運ぶ



【二番高炉を模型の裏側から見た様子】

高炉(点線部分)は板張りの建物でおおわれていました。



こうろ 高炉
ふいご

⑦ 高炉の下に穴をあけ、とけた鉄を砂場に流し出す

⑧ 鉄を全て出したら穴をふさぐ


⑨ 砂場で固まった鉄を水に入れて冷やす

⑩ できた鉄を御日払所に運び重さを量る

【二番高炉の様子】
高炉の温度を上げるため「ふいご」という装置で風を送る

高炉は30~50日動かした後、修理をしてくり返し使います。橋野高炉では3基の高炉が順番に動いていました。

橋野高炉をつくった中心人物は、江戸や長崎で医りょうや製鉄を学んだ盛岡藩出身の大島高任です。1858年1月15日(むかしの暦で安政4年12月1日)、大島は盛岡藩大橋村(橋野村から約7km南東)に西洋の技術を使って高炉を築き、鉄鉱石を原料とした鉄づくりを日本で初めて成功させました。



【大島高任の銅像】

- その翌年、大島は本格的な高炉を建てる場所として橋野村を選びました。そこには大きく3つの理由がありました。
- ★鉄のもと「鉄鉱石」と木炭のもと「木」がたくさんとれる
 - ★「ふいご」を動かすための「水車」を回す「川」がある
 - ★むかしから鉄づくりに親しんできた人々がいる



【現在の二番高炉跡】

2015年7月、橋野高炉跡と関連遺跡からなる『橋野鉄鉱山』※は世界のたからもの『世界文化遺産』に登録されました。

みなさんもぜひ見学してみてくださいね。

※「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の一つとして登録

参考にした本 『橋野高炉跡パンフレット』 釜石市教育委員会事務局 生涯学習スポーツ課 2009年 他
図の出典 『橋野高炉絵巻』(模写) 岩手県立博物館蔵

来月(10月)の
けんぱくものしりシートは
民俗-11だよ!
おたのしみに!



岩手県立博物館
〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/